

<中学生 エッセイ>

◎中学校1年 女子

「個性を認め合う」

私たち1年生のクラスでは、どんなクラスになりたいかという目標は三つあります。

一つ目は、「協力して仲良くできるクラス」です。行事や部活などでも協力し一致団結できるようになりたいと思いこの目標をたてました。

二つ目は、「個性を認め合えるクラス」です。一人一人に個性があり、その人のことを認め合えるようになることが大切だという意見があり、この目標になりました。

三つ目は、「何事も真剣に出来るクラス」です。一つ目の目標と似ていますが、どんなことでも中学生として真剣に取り組みたいということでこの目標をたてました。

私が、この三つの目標の中で特に人権にかかわっていると思う目標は、二つ目の「個性を認め合えるクラス」だと思います。なぜなら、「個性を認め合える：」ということができなかつたら、その人のことを否定し仲間外れにしていることになってしまうからです。否定し、仲間はすれにするということはいじめと同じようなことになり、否定された人は、とてもいやな気持ちになります。そうならないために私が必要だなど思うことは二つあります。

一つ目は、授業などで意見を出し合うときに友達の意見を受け止め、取り入れることだと思います。授業で話し合うことはよくあり、その中でも自分の意見を否定されると嫌な気持ちになります。否定するのではなく、しっかりと意見をきき受け止め取り入れることで殿田地は傷つかないと思います。

二つ目は、自分が話しにくいなと感じてもその人に冷たく接しないことだと思います。クラス内で自分が話しにくいなと感じてもその人に冷たく接してしまうと傷ついてしまうし喧嘩のもとになったりしてしまいます。そのため、自分の感情を出しすぎないようにし、相手がいやな気持ちにならない言葉で話すことが大切だと思います。

私のクラスでは意見を否定するということがあるわけではなく、その人の性格などを認め合えないことがあります。例えば、部活だけ参加している人に対して「ずるい」などと言ったことを言う人もいます。なぜそういうことを言うのかを考えたときに、その人のことを認め合うことができているからだと思います。また、クラスの中で話しにくい人と話しやすい人がいた時に、話しにくいと思

っている人に対して、その人に冷たくしてしまったり軽い言い合いをしてしまうことがあります。そうならないためにも、みんなと平等に接して、言葉遣いに気を付けて話すことが大切だと思います。また、自分がいやだと感じたら、すぐにその人に言うべきだと思います。その時にも、強く反抗的に言うのではなく、できるだけ優しい言葉で言うのがいいと思います。自分が話しにくいなと感じる人も、その部分がその人の個性だと思い受け入れ、認め合うことが大切だなと思いました。

これからも、私も人の個性を認め合い、人の意見を否定しないようにしたいです。

◎中学校 2年 女子

「同性愛について」

私たちは毎日の生活の中で、いろいろなひとと出会い、関わりながら過ごしています。学校では友達や先生と話したり、家では家族と過ごしたり、地域では近所の人と挨拶を交わしたりします。その中には、自分と考え方や趣味が違う人もたくさんいます。でも、それは当たり前のことです。みんなちがってみんないい。しかし、その「ちがい」が原因でいじめられたり、変な目で見られたりすることもあります。その中の一つが「同性愛者」への偏見です。私はこのことについて考え、みんなが大切にされる社会をつくるにはどうしたらよいか考えてみようと思いました。

「同性愛」とは、同性の人を好きになることです。私は最初、「へえ、そういうこともあるんだなあ。」と、思いました。でも、それは全然へんなことでもないし、特別なことでもありません。人を好きになる気持ちは人それぞれでちがっていいはずですが。しかし、世の中には「男は女を、女は男を好きになるもの。」という考えがまだ多くあります。そのせいで、同性を好きになった人が、「普通じゃない。」と思われたり、からかわれたりすることがあると知り、とても悲しくなりました。もし、勇気を出して気持ちを伝えても、「変だ。」と笑われてしまったらどんなに傷つくだろうと想像し、胸が痛みました。

あるとき、インターネットで、「LGBTQ+」という言葉を知りました。これは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クィアなどと言う言葉です。私は、「こんなにたくさんの性の形があるんだな。」と驚くと同時に、「これは、特別なことではなく普通のことなんだ。」と感じました。でも、同性愛者の人たちは今でもつらい思いをしているそうです。学校や職場でからかわれたり、家族に打ち明けられなかったり、好きな人と結婚できなかったりすることもあります。もし私が好きな

人と一緒にいることを許されなかったら、とても悲しいと思います。

日本では、まだ同性同士の結婚は認められていませんが、「パートナーシップ制度」という仕組みが広がっています。ニュースで同性カップルが「やっと認められた。」と喜ぶ姿を見て、とても温かい気持ちになりました。

では、私たちにできることは何でしょうか。私はまず、「知ることが大切」だと思います。正しく知れば、変なイメージや偏見はなくなると思います。本屋インターネットで調べたり、ニュースを見るだけでも知識を得られます。また、もし友達が同性を好きになっても私は区別せず、他の友達と同じように接したいです。人を好きになる気持ちは同性でも異性でも素敵なことに変わりはありません。「変だよ」と否定するのではなく、「自分らしくいていいんだよ。」と伝えられる人になりたいです。ひとりひとりが「差別しない」と心に決めることが、偏見をなくす第一歩だと思います。

私は、もし悩んでいる人がいたら、温かく接して安心できるようにしたいです。友達が私に打ち明けてくれたら、私は絶対に笑ったり否定したりせず、「教えてくれてありがとう。応援するよ。」と言える自分でありたいです。私は、学校でもっとLGBTQ+について学ぶ時間があればいいなと思います。道徳や人権の授業で話し合う機会があれば、理解が深まり、知らないことが原因で生まれる差別も減ると思います。

私は、これからも、いろんな人の考え方や個性を受け入れられる人間になりたいです。人はみんな、自分らしく生きる権利があります。同性愛者であっても、どんな性のあり方であっても、「みんなちがってみんないい」という社会をつくるために、和足もできることから行動していきたいです。そのために、まずは自分が正しい知識を持ち、周りの人に伝えていくことから始めたいです。